

令和7年度第3回 学校運営協議会 議事録

期 日 令和7年10月8日(水)

場 所 静岡県立伊豆の国特別支援学校 会議室

1 開会・校長挨拶

- ・ 新委員の紹介: 東レ株式会社、脊戸輝さんに任命状交付
- ・ 教育活動の近況:
 - 小学部、中学部、高等部で、それぞれ横浜方面、山梨方面、名古屋方面への修学旅行が控えている。
 - 近年の社会情勢(効率や成果重視)により、日帰りや短縮化(3泊4日から2泊3日など)の傾向が見られることに触れ、効率だけでなく、「心の豊かさ」や「ウェットな部分」(お互い様の精神、人の痛みが分かる社会)を大切にしていく。
 - 教育においても、連携を通じて生徒たちの「心の豊かさ」につながるよう取り組む。

2 前期学校評価と共生・共育の推進

前期の学校評価結果(資料1)と、地域・学校一体となった共生・共育の推進(資料2)について、各学部からの活動報告と意見交換を行う。

各学部の主な取り組み

- ・(小学部) 地域の小学校との情報提供・交流教育を実施。児童が交流を通じて、特別支援学校の生徒との関わり方を学んだ。地域(修善寺駅、ファミリーレストランなど)に出る活動を通じて、地域に生徒を知ってもらう成果も見られた。
- ・(中学部) 学校間交流(韮山中学校)を年2回に増やすなど交流を深める。竹灯籠作りやあやめ祭のかざぐるま作成など地域のイベントに参加。外部人材活用(コーヒーショップなど)による職業意識の育成。
- ・(高等部) 職場実習や地域活動(清掃、製品販売)に積極的に参加。伊豆総合高校の生徒との修善寺大掃除を通じて社会性を育成。地域の公民館の清掃では、地域住民から感謝され、自己有用感を高めている。

委員からの主な意見・課題

鈴木委員(寺家区長)

本校がもつ特別支援教育のノウハウ(センター的機能)を、地域の小学校・中学校の先生方に共有・指導できるとよい。学校評価において、具体的な数値目標を設定すること、および児童生徒や保護者のアンケート結果も加えて、評価をより明確にするとよい。

佐藤委員(四日町顧問)

学校現場の現状と問題点として、以前の勤務校ではコーディネーター制度はあまり行われていなかった。現在勤務する学校(非常勤)でも、毎年必ず何らかの問題で学校から外部(警察など)への通報があり、保健室は非常に多忙。中学校から高校へ引き継がれる、情緒不安や精神的なケアが必要な生徒の情報が年々増加しており、クラスの半数以上に何らかの形で問題が報告されている。

生徒の抱える問題が増えている現状は、排除されず学校に居られるようになったという意味で、必ずしも悪いことではないと考えている。

個人(保健室、担任)だけでは生徒の複雑な問題に対処することは難しく、チームとして連携し、お互いに助け合う必要がある。教員は「相談することで能力不足と思われるのではないか」という懸念を抱きがちだが、そうではなく、助けを求めることは自分自身や何より生徒を助けることになる。

学校側の課題認識:

本校(特別支援学校)は知的障害のある生徒を対象としており、発達障害や学習障害の生徒は本来の対象ではないという点が、中学校などの関係者に十分に理解されていないという課題がある。この課題の対応や、連携を強化するために、以下の活動を行っている。

中学校の校長先生方に対し、本校は知的障害の児童生徒が通う学校で、発達障害などの対象ではない。支援については、本校のコーディネーターが、一緒に考えることを伝え、周知を図っている。周知の結果、早速問い合わせがあるなど、地域の学校との連携が進んでいる。

本校がもつノウハウは、発達障害や学習障害の生徒への支援にも役立つため、それを共有しながら、一緒に考えていくというスタンスでコーディネーターを派遣している。

また、小中高それぞれにコーディネーターが配置されているものの、コーディネーター同士の連携強化が重要であると認識している。

特に高校では、発達障害などの生徒への対応に非常に困っている状況があり、そうした高校とも連携して相談に乗りながら支援していきたいと考えている。

川島 PTA 会長:

PTA と地域との繋がりが薄く、保護者同士の縦の繋がりが(学年を超えた交流)の形成が難しい現状がある。地域連携については、PTA で主催するよりも、既存の地域や企業の活動(例:防災訓練、企業のイベント)に「お邪魔させてもらう」形が参加しやすく有効と考える。

脊戸委員(東レ株式会社)

職場実習や東レアローズ(バレーボール)との交流は、生徒にとっても企業にとっても有意義であり、今後も継続したい意向。

3 今後の計画(10月～3月)

- ・(小学部)地域の散策や校外学習を多数計画。地域の方を招いて民謡や自然素材クラフトを学ぶ機会を設定。お正月遊びの指導者として、四日町自治会など地域高齢者への協力依頼を検討。
- ・(中学部)12月に伊豆の国市制20周年パン祖のパン祭りのオブジェ作りで、韮山中学校の生徒30名と共同制作を実施(12/15・17に本校体育館にて)。
- ・(高等部)地域清掃や福祉センター、高校文化祭などでの作業製品販売を通じて、地域住民と交流し、販路を広げる活動を継続。

4 閉会

- 全ての教育活動が「知的障害のある子どもたちが体験を通じて学ぶ」という教育的効果に紐づけられていること、地域からの協力や情報の重要性を改めて示した。
- 次回開催日: 令和8年2月19日(木)午前9時00分から11時30分まで。